

成果指標				
成果指標	交通安全施設設置箇所数(修繕含む)			
指標設定の考え方	安全な交通網の構築という観点から、交通安全施設の設置数を成果指標とする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目標	54	54	54	54
実績	62	51	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	限られた予算のなかで最大の効果を発揮させるためには、設置要望のあるカーブミラーやガードレールの現場の状況を踏まえて、重要度及び緊急度の高いものから設置・修繕を行う必要がある。また、カーブミラーやガードレールなど既存交通安全施設の適切な維持・管理を行い、施設の長寿命化を図る必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	地元からの要望に対して、事業の費用対効果に留意しつつ重要度や緊急度を勘案の上、実施箇所を採択するように努める。この事業は、交通安全対策特別交付金を財源にしているため、市道での施設整備に限定されることを遵守する。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題